



平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月6日

上場取引所 東

上場会社名 ライオン株式会社

コード番号 4912 URL <http://www.lion.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 濱 逸夫

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 鎌尾 義明

TEL 03-3621-6211

四半期報告書提出予定日 平成26年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第3四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	265,305	5.2	7,343	30.1	8,202	22.1	4,895	45.0
25年12月期第3四半期	252,222	5.8	5,643	394.1	6,717	244.6	3,377	—

(注) 包括利益 26年12月期第3四半期 6,007百万円 (△26.3%) 25年12月期第3四半期 8,148百万円 (109.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第3四半期	18.25	17.52
25年12月期第3四半期	12.58	12.56

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第3四半期	268,614	127,265	45.1
25年12月期	282,098	124,232	42.0

(参考) 自己資本 26年12月期第3四半期 121,037百万円 25年12月期 118,448百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	5.00	—	5.00	10.00
26年12月期	—	5.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	360,000	2.3	12,000	10.9	13,000	5.7	7,000	14.8	26.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期3Q	299,115,346 株	25年12月期	299,115,346 株
② 期末自己株式数	26年12月期3Q	30,901,151 株	25年12月期	30,882,704 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期3Q	268,212,713 株	25年12月期3Q	268,369,909 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料で記述している業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、経済情勢、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、上記予想数値とは大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信【添付資料】p.6「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」を御覧ください。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
3. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期（平成26年1月1日～9月30日）のわが国経済は、消費税率引上げの影響を受ける中、企業収益や雇用情勢の改善が続き、緩やかな回復基調で推移しました。

当社グループが主に事業を展開する国内一般用消費財業界においては、増税前の駆け込み需要とその反動が生じる中、店頭での激しい販売競争が続きました。

このような環境のもと、当社グループは、中期経営計画「V-1計画（*V i s i o n 2 0 2 0 P a r t ー 1*）」の4つの戦略テーマ「国内事業の質的成長」、「海外事業の量的成長」、「新しいビジネス価値の開発」、「組織学習能力の向上」にもとづく施策を推進しました。

国内事業では、増税前の駆け込み需要を取り込むとともに、歯磨、制汗剤、解熱鎮痛薬、洗濯用液体洗剤等で高付加価値の新製品を発売し育成に取り組みました。

海外事業では、オーラルケア、洗濯用洗剤等の主要分野において、積極的なマーケティング施策を展開し、重点ブランドの育成を図りました。

以上の結果、当第3四半期の連結業績は、売上高2,653億5百万円（前年同期比5.2%増、為替変動の影響を除いた実質前年同期比4.2%増）、営業利益73億4千3百万円（同30.1%増）、経常利益82億2百万円（同22.1%増）、四半期純利益48億9千5百万円（同45.0%増）となりました。

【連結業績の概況】

(単位：百万円)

	当第3四半期	売上比	前第3四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	265,305		252,222		13,082	5.2%
営業利益	7,343	2.8%	5,643	2.2%	1,700	30.1%
経常利益	8,202	3.1%	6,717	2.7%	1,484	22.1%
四半期純利益	4,895	1.8%	3,377	1.3%	1,518	45.0%

【セグメント別業績】

(単位：百万円)

	売上高				セグメント利益（営業利益）			
	当第3四半期	前第3四半期	増減額	増減率	当第3四半期	前第3四半期	増減額	増減率
一般用消費財事業	198,259	188,302	9,957	5.3%	4,477	3,195	1,282	40.1%
産業用品事業	43,938	37,366	6,571	17.6%	1,526	613	913	148.9%
海外事業	62,593	56,909	5,684	10.0%	833	1,187	△353	△29.8%
その他	20,943	20,724	218	1.1%	371	594	△223	△37.6%
小計	325,734	303,302	22,432	7.4%	7,209	5,590	1,618	29.0%
調整額	△60,429	△51,080	△9,349	—	133	52	81	156.3%
合計	265,305	252,222	13,082	5.2%	7,343	5,643	1,700	30.1%

セグメント別の概況は、以下のとおりです。

<一般用消費財事業>

当事業は、「オーラルケア分野」、「ビューティケア分野」、「ファブリックケア分野」、「リビングケア分野」、「薬品分野」、「その他の分野」に分かれており、全体の売上高は、前年同期比5.3%の増加となりました。セグメント利益は、前年同期比40.1%の増加となりました。

(単位：百万円)

	当第3四半期	売上比	前第3四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	198,259		188,302		9,957	5.3%
セグメント利益	4,477	2.3%	3,195	1.7%	1,282	40.1%

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第3四半期では18,849百万円、前第3四半期では16,557百万円となっております。

[売上高の分野別状況]

(単位：百万円)

	当第3四半期	前第3四半期	増減額	増減率
オーラルケア分野	38,926	35,349	3,577	10.1%
ビューティケア分野	15,903	14,338	1,564	10.9%
ファブリックケア分野	59,773	57,519	2,254	3.9%
リビングケア分野	14,537	15,136	△598	△4.0%
薬品分野	27,381	26,071	1,309	5.0%
その他の分野	41,737	39,887	1,850	4.6%

(オーラルケア分野)

主力の「クリニカ」シリーズを一新し、予防歯科をテーマに“歯科専門家が奨めるセルフケア”を実現するブランドとして育成を図りました。

歯磨は、当社独自の「高密着フッ素処方」に改良した「クリニカアドバンテージ ハミガキ」が好調に推移するとともに、おとろえてきた歯ぐき細胞を活性化して歯周病（歯肉炎・歯周炎）を防ぐ「システムハグキプラス ハミガキ」を新発売し、全体の売上は前年同期をかなり上回りました。

歯刷牙は、主力の「デンターシステム」シリーズや「クリニカアドバンテージ ハブラシ」が好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

口中剤は、長時間殺菌処方でムシ歯を予防する新製品「クリニカアドバンテージ デンタルリンス」がお客様のご好評を得て、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

また、奥歯の歯間にも楽に入り、切れにくい繊維を採用した新製品「クリニカアドバンテージ デンタルフロス Y字タイプ」がお客様のご好評を得ました。

(ビューティケア分野)

ハンドソープは、「キレイキレイ 薬用泡ハンドソープ」が好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

制汗剤は、市場が夏場の天候不順の影響を受ける中、当社はナノイオン制汗成分が汗ジミやニオイの原因となるワキ汗をしっかりと抑える新製品「Ban汗ブロックロールオン」がお客様のご好評を得て、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

(ファブリックケア分野)

洗濯用洗剤は、液体洗剤「トップ クリアリキッド」や改良発売したおしゃれ着用洗剤「アクロン」が好調に推移するとともに、超コンパクト液体洗剤「トップ ^{ハイジニア} H Y G I A」が順調に推移し、全体の売上は前年同期を上回りました。

柔軟剤は、消臭効果が続き、天然アロマのナチュラルな香りが楽しめる「香りとデオドラントのソフラン アロマナチュラル」シリーズが好調に推移し、全体の売上は前年同期をかなり上回りました。

(リビングケア分野)

台所用洗剤は、食器洗い機専用洗剤「^{チャーム} CHARMY クリスタ」シリーズが好調に推移しましたが、「チャーミーマイルド」が伸びなやみ、全体の売上は前年同期を下回りました。

住居用洗剤は、浴室用カビ防止剤「ルック おふろの防カビくん煙剤」が順調に推移しましたが、「ルックまめピカ トイレのふき取りクリーナー」が伸びなやみ、全体の売上は前年同期比横ばいとなりました。

調理関連品は、簡単に取り出せて少量の調理に無駄なく使える新製品「リード ヘルシークッキングペーパー スマートタイプ」がお客様のご好評を得て、全体の売上は前年同期を上回りました。

(薬品分野)

解熱鎮痛薬は、つらい頭痛に対して、独自技術で“速く効いて”“胃にやさしい”を両立した新製品「バファリン プレミアム」がお客様のご好評を得て、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

点眼剤は、「スマイル40 プレミアム」、「スマイル40 ^{イーエックス} E X ゴールドマイルド」が好調に推移し、全体の売上は前年同期をかなり上回りました。

外用消炎鎮痛剤は、血流を促し、肩こり痛に効く新製品「ハリックス ほぐリラ」シリーズがお客様のご好評を得て、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

(その他の分野)

通信販売商品は、機能性食品等で、良質な休息を支える清酒酵母を配合した「グッスミン 酵母のちから」を新発売し、お客様のご好評を得ましたが、主力の「ナイスリムエッセンス ラクトフェリン」が伸びなやみ、全体の売上は前年同期を下回りました。

ペット用品は、オーラルケア用品や猫用トイレの砂「ニオイをとる砂」が順調に推移し、全体の売上は前年同期を上回りました。

<産業用品事業>

当事業では、導電性カーボン、界面活性剤、業務用洗浄剤等を取り扱っており、全体の売上高は、前年同期比17.6%の増加となりました。セグメント利益は、収益性の高い製品が伸長し、前年同期比148.9%の増加となりました。

(単位：百万円)

	当第3四半期	売上比	前第3四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	43,938		37,366		6,571	17.6%
セグメント利益	1,526	3.5%	613	1.6%	913	148.9%

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第3四半期では20,668百万円、前第3四半期では14,652百万円となっております。

導電性カーボンは、リチウムイオン電池などの2次電池向けケッチェンブラックが堅調に推移し、全体の売上は前年同期を上回りました。

界面活性剤は、収益性改善に向けて商品構成の見直しを進めたため、全体の売上は前年同期を下回りました。

建築用薬剤は、地盤改良剤が好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

業務用洗浄剤は、ハンドソープが順調に推移するとともに、厨房向け消毒用アルコールが好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

<海外事業>

海外は、タイ、韓国、中国等において事業を展開しており、全体の売上高は、前年同期比10.0%の増加(為替変動の影響を除いた実質前年同期比5.6%の増加)となりました。セグメント利益は、ブランド育成のためのマーケティング投資を増加させたため、前年同期比29.8%の減少となりました。

(単位：百万円)

	当第3四半期	売上比	前第3四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	62,593		56,909		5,684	10.0%
セグメント利益	833	1.3%	1,187	2.1%	△353	△29.8%

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第3四半期では3,205百万円、前第3四半期では2,951百万円となっております。

(主要国の状況)

タイでは、「システム」歯刷子や「植物物語」ボディソープが好調に推移し、全体の売上は前年同期を上回り、円貨換算でも上回りました。

韓国では、「キレイキレイ」ハンドソープが好調に推移しましたが、台所用洗剤「チャムグリーン」が伸びなやみ、全体の売上は前年同期を下回りました。なお、円貨換算では為替変動の影響を受け、前年同期をかなり上回りました。

中国では、「システム」歯刷子が好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回り、円貨換算でも大幅に上回りました。

また、超コンパクト液体洗剤「トップ ^{ナノノックス} NANO X」が香港で好調に推移する中、台湾でも新発売し、お客様のご好評を得ました。

<その他>

(単位：百万円)

	当第3四半期	売上比	前第3四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	20,943		20,724		218	1.1%
セグメント利益	371	1.8%	594	2.9%	△223	△37.6%

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第3四半期では17,706百万円、前第3四半期では16,919百万円となっております。

建設請負事業等のその他では、全体の売上高は、209億4千3百万円（前年同期比1.1%増）となりました。セグメント利益は、3億7千1百万円（前年同期比37.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当四半期における資産、負債および純資産の状況
(連結財政状態)

	当第3四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末	増減
総資産（百万円）	268,614	282,098	△13,484
純資産（百万円）	127,265	124,232	3,032
自己資本比率※1（%）	45.1	42.0	3.1

※1：自己資本比率は、（純資産－新株予約権－少数株主持分）／総資産で計算しています。

総資産は、受取手形及び売掛金の減少等により、前連結会計年度末と比較して134億8千4百万円減少し、2,686億1千4百万円となりました。純資産は、30億3千2百万円増加し、1,272億6千5百万円となり、自己資本比率は45.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年2月10日に公表いたしました通期の連結業績予想については変更しておりません。

わが国経済は、消費税率引き上げの影響ならびに国際的な金融情勢や地政学的リスク等により、先行きの不透明感が強まるものと想定されます。

当社グループが主に事業を展開する国内一般用消費財業界においても、税率引き上げによる消費への影響や、店頭における激しい販売競争等が見込まれることから事業環境は厳しさを増すものと予想されます。

このような事業環境の中、当社グループは引き続き重点ブランドの育成に取り組むとともに、トータルコストダウンならびに競争費用の効率化を進め、収益性の向上を目指してまいります。

(当期業績予想値算出の前提条件)

主要な為替レートは、102円/米ドル、3.1円/バーツとしています。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、平成26年3月19日付でアクゾノーベル社との合弁会社であるライオン・アクゾ株式会社のアクゾノーベル社持分株式を取得いたしました。

これにより、同社は当社の持分法適用関連会社から連結子会社となりました。

また、平成26年4月1日付で、商号をライオン・スペシャリティ・ケミカルズ株式会社に変更しております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（有形固定資産の減価償却方法の変更）

従来、当社及び国内連結子会社の有形固定資産の減価償却の方法は、主として定率法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法へ変更しております。

当社グループは、2011年に発表した新経営ビジョン「Vision2020」に従い、その戦略として1. 国内事業の質的成長、2. 海外事業の量的成長、3. 新しいビジネス価値の開発、4. 組織学習能力の向上を掲げております。これを受け、中期経営計画「V-1計画（Vision2020 Part-1）」においては、国内事業の質的成長について、①重点的ブランド育成による主要分野の地位向上、②付加価値分野育成と効率化による収益基盤強化、③研究・生産技術知見や生活者研究の強化、以上3点により推進しております。

この取り組みの一環として、研究開発センター構想の第Ⅱ期計画が2013年に竣工し2014年に本格稼働したことを機に、当社グループの有形固定資産の使用実態を適切に反映した減価償却の方法について再検討を行いました。その結果、国内の以下の変化を総合的に勘案し、減価償却の方法を定額法に変更することにより、使用期間を通じてより適切な費用配分を行うことができるものと判断いたしました。また、この変更によって、海外連結子会社と会計方針が統一され、グループ全体の業績管理に資するものと判断しております。

(1) ファブリックケア分野の市場においては、高残香タイプの柔軟剤や液体洗剤のような付加価値の高い液体製品に対する需要が高まっており、当社グループもこれに応じて製造設備の変更及び合理化を行っております。これら液体製品の製造設備は、従来製品の製造設備と比較すると、設備の損耗が平均的に発生するとともに安定的な消費需要を反映して每期安定的に稼働していく見込みです。

(2) 研究・生産技術知見や生活者研究の強化に対応して、研究開発に係わる設備の有形固定資産に占める割合が増加しております。これらの研究開発設備は、每期安定的、平均的に稼働するものと考えられます。

なお、この変更に伴い、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ798百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,559	21,733
受取手形及び売掛金	57,246	47,164
有価証券	25,429	13,152
商品及び製品	23,005	28,010
仕掛品	3,278	4,851
原材料及び貯蔵品	8,802	9,119
その他	4,881	6,183
貸倒引当金	△52	△36
流動資産合計	148,150	130,178
固定資産		
有形固定資産	68,989	77,943
無形固定資産		
商標権	10,577	8,002
その他	2,029	2,015
無形固定資産合計	12,606	10,018
投資その他の資産		
投資有価証券	33,362	31,762
その他	19,026	18,743
貸倒引当金	△37	△32
投資その他の資産合計	52,351	50,473
固定資産合計	133,948	138,435
資産合計	282,098	268,614
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	49,918	40,468
短期借入金	9,611	11,540
1年内返済予定の長期借入金	22,466	116
未払金及び未払費用	39,087	34,894
未払法人税等	3,057	2,388
賞与引当金	2,176	2,869
返品調整引当金	603	579
販売促進引当金	744	982
役員賞与引当金	231	176
その他	3,760	4,142
流動負債合計	131,656	98,158
固定負債		
新株予約権付社債	-	14,398
長期借入金	204	2,348
退職給付引当金	19,353	19,552
役員退職慰労引当金	373	420
資産除去債務	340	358
その他	5,936	6,111
固定負債合計	26,208	43,189
負債合計	157,865	141,348

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,433	34,433
資本剰余金	31,499	31,499
利益剰余金	61,410	63,621
自己株式	△16,755	△16,802
株主資本合計	110,588	112,752
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,921	6,508
繰延ヘッジ損益	24	9
為替換算調整勘定	914	1,767
その他の包括利益累計額合計	7,860	8,285
新株予約権	193	894
少数株主持分	5,590	5,333
純資産合計	124,232	127,265
負債純資産合計	282,098	268,614

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	252,222	265,305
売上原価	111,045	116,092
売上総利益	141,177	149,212
販売費及び一般管理費	135,533	141,869
営業利益	5,643	7,343
営業外収益		
受取利息	156	124
受取配当金	386	405
持分法による投資利益	477	462
受取ロイヤリティー	189	200
為替差益	126	106
その他	351	320
営業外収益合計	1,688	1,619
営業外費用		
支払利息	528	511
社債利息	-	53
その他	85	195
営業外費用合計	614	760
経常利益	6,717	8,202
特別利益		
段階取得に係る差益	-	477
負ののれん発生益	-	97
投資有価証券売却益	1,297	-
固定資産処分益	39	-
その他	-	34
特別利益合計	1,337	609
特別損失		
固定資産処分損	261	205
減損損失	803	90
特別損失合計	1,064	296
税金等調整前四半期純利益	6,989	8,515
法人税、住民税及び事業税	2,041	3,189
法人税等調整額	980	△4
法人税等合計	3,022	3,184
少数株主損益調整前四半期純利益	3,967	5,330
少数株主利益	590	435
四半期純利益	3,377	4,895

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,967	5,330
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,281	△417
繰延ヘッジ損益	△16	△14
為替換算調整勘定	1,865	975
持分法適用会社に対する持分相当額	50	134
その他の包括利益合計	4,180	677
四半期包括利益	8,148	6,007
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,136	5,319
少数株主に係る四半期包括利益	1,011	688

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	一般消費財 事業	産業用品事業	海外事業				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	171,745	22,713	53,957	3,805	252,222	—	252,222
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高(注)1	16,557	14,652	2,951	16,919	51,080	△ 51,080	—
計	188,302	37,366	56,909	20,724	303,302	△ 51,080	252,222
セグメント利益	3,195	613	1,187	594	5,590	52	5,643

(注) 1 報告セグメント内の内部取引を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 52 百万円は、内部取引消去額等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	一般消費財 事業	産業用品事業	海外事業				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	179,410	23,269	59,388	3,237	265,305	—	265,305
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高(注)1	18,849	20,668	3,205	17,706	60,429	△ 60,429	—
計	198,259	43,938	62,593	20,943	325,734	△ 60,429	265,305
セグメント利益	4,477	1,526	833	371	7,209	133	7,343

(注) 1 報告セグメント内の内部取引を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 133 百万円は、内部取引消去額等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

当社は、平成26年10月31日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるライオンケミカル株式会社オレオケミカル事業所における脂肪酸メチルエステル（以下、メチルエステルという。）事業に関し、外部調達したメチルエステルの加工及び販売に特化することを決議いたしました。これにより、当第4四半期連結会計期間において、撤去資産簿価額及び撤去費用の合計約810百万円を特別損失に計上いたします。

① 事業内容変更の理由

ライオンケミカル株式会社オレオケミカル事業所では、当社洗剤・柔軟剤等で使用する界面活性剤の素原料として、天然油脂を原料としたメチルエステルの製造、加工及び販売を行ってまいりました。その事業内容について検討を行いました結果、メチルエステルの製造を中止し、外部調達したメチルエステルの加工及び販売に特化することにより、グループ全体のコストダウンが可能と判断いたしました。

② 事業内容変更の概要

今回の変更により継続する工程及び停止する工程は以下のとおりであります。

- ・継続工程：メチルエステル加工工程（水素添加反応など）
- ・停止工程：メチルエステル製造工程（エステル化反応及び分留）

③ 今後のスケジュール（予定）

- ・平成26年12月 メチルエステル製造停止
- ・平成27年2月～ 外部調達メチルエステルへ順次切替
- ・平成27年～平成28年 停止工程の設備撤去